

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

| | | | |
|------|------------------|----|----|
| 所属 | 理工学部 | 身分 | 教授 |
| 氏名 | 生田目崇 | | |
| NAME | Takashi NAMATAME | | |

1. 研究課題

（和文）機械学習・人工知能による消費者行動評価モデルに関する研究

（英文）Study of Consumer Behavior Evaluation Model by Machine Learning and Artificial Intelligence

2. 研究期間

2年間（2018～2019 年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

（和文）

近年、機械学習手法並びに人工知能の手法への期待が様々な分野で高まっている。その中で、本研究では、消費者行動の解明にどのように用いていけばよいかについての検討を行った。消費者行動はこれまで線形モデルを中心とした規範的なモデルによる評価が行われてきた。消費者の多様化が問われており、非線形関係を表すことができる機械学習・人工知能の各手法は、消費者行動評価に対して、これまで以上の精度や知見が得られることが期待できる。

本研究では、機械学習・人工知能に関するこれまでの研究についてサーベイし、目的とする現象に合わせた評価手法がどのようなものであるべきかについて考察した。さらに、取りうる実データをもとに、いくつかの分析モデルを設け、既存の方法との比較を行った。結果として、モデルにすべき工夫をすればより高い精度で消費者行動、特に購買行動を評価・予測できることを示すことができた。ただし、計算時間の問題や最良のモデルをどのように導くかの方法については、今後も継続して研究する必要があることも同時に示唆された。

これらの成果については、今年度に論文としてまとめて投稿・公表する予定である。

（英文）

In this study, we attempt various machine learning and artificial intelligence techniques to elucidate consumer behavior. As the result of our study, some methods is definitely effective to explain consumer behavior, especially buying behavior. However, there remain some problem, e.g. it needs much time to calculate the models, so we would like to continue to build more effective methods.